第 53 回　愛媛県教育研究大会（発表大会）
学習指導案集

研究主題

自らの変化に気付く児童の育成
～魅力ある学習展開、変化を見取る評価を通して～






令和8年11月5日（木）

東温市立川上小学校

日　程

輸送バス発（川内中学校→川上小学校）　①８：４５　②９：００

○　受付　８：５０ ～　９：２０

○　授業説明　９：２０ ～　９：３０

○　公開授業　９：３５ ～ １０：２０

○　研究協議　１０：４０ ～ １２：００

授業教室	教科	単元名	授業者	授業説明・研究協議会場
１年松組	国語	じどう車くらべ	水田さくら	１年竹組
２年竹組	国語	みきのたからもの	池内　真衣	２年松組
３年松組	算数	円と球	武智　剛毅	３年竹組
４年竹組	算数	面積	池田　亮平	４年松組
５年竹組	社会	わたしたちの生活と工業生産	茂川　哲也	５年松組
６年竹組	社会	長く続いた戦争と人々のくらし	今井　互郎	６年松組

移動・昼食　１２：００ ～ １３：００

輸送バス発（川上小学校→川内中学校）　①１２：１５　②１２：４５

※１～４年分科会参加者は①便、５、６年分科会参加者は②便に乗車してください。

○　開会式・全体会　１３：００ ～ １３：２０

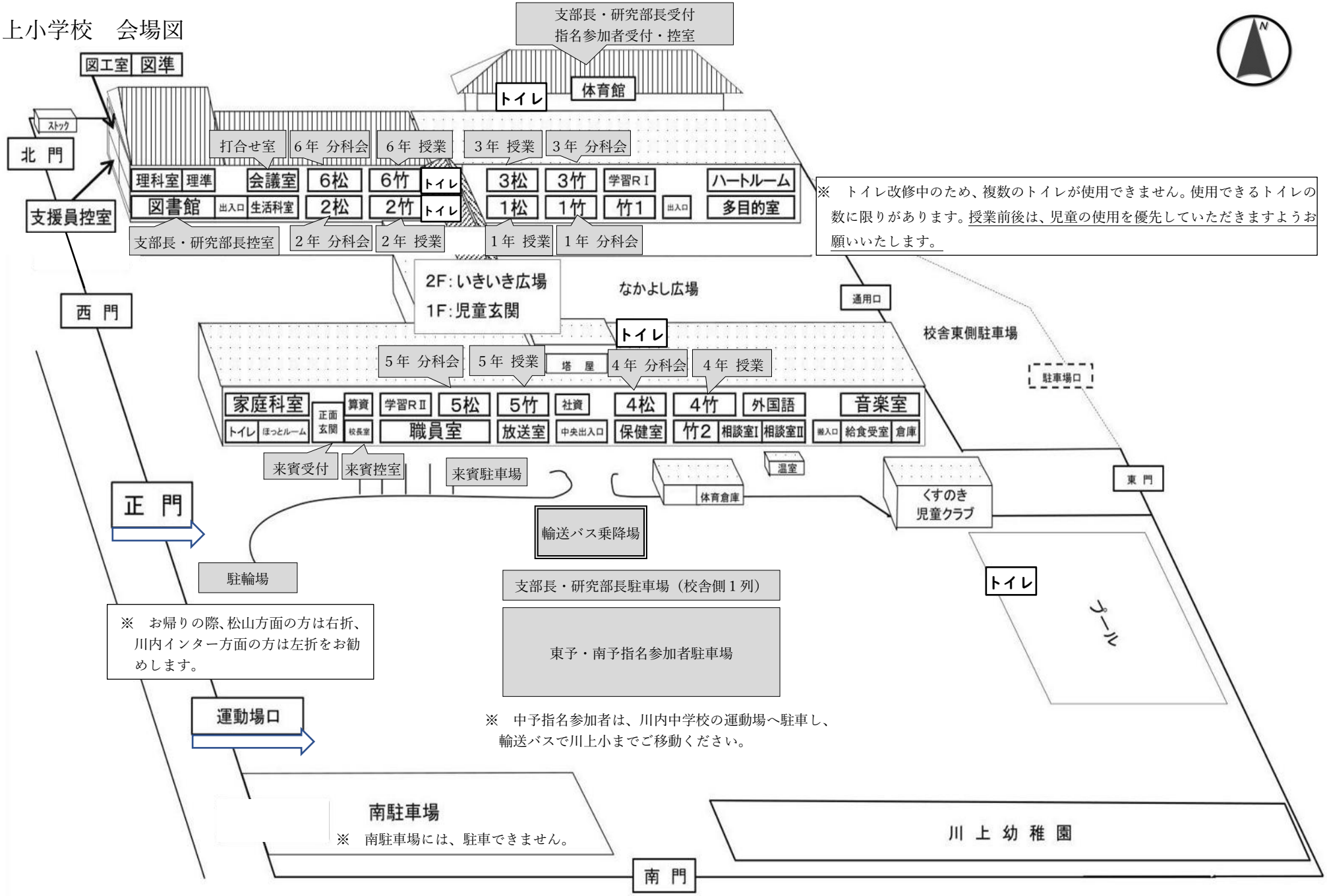
○　研究発表・ディスカッション・総括　１３：３０ ～ １５：５５

○　閉会式　１５：５５ ～ １６：００

輸送バス発（川内中学校→川上小学校）　①１６：００　②１６：３０

※指名参加者は①便に乗車してください。②便は役員や本校職員が乗車します。

川上小学校　会場図


支部長・研究部長受付
指名参加者受付・控室
体育館
トイレ
図工室
図準
ストック
北　門
支援員控室
打合せ室
6年 分科会
6年 授業
3年 授業
3年 分科会
理科室
理準
会議室
6松
6竹
3松
3竹
学習RⅠ
ハートルーム
図書館
出入口
生活科室
2松
2竹
1松
1竹
竹1
出入口
多目的室
支部長・研究部長控室
2年 分科会
2年 授業
1年 授業
1年 分科会
※　トイレ改修中のため、複数のトイレが使用できません。使用できるトイレの数に限りがあります。授業前後は、児童の使用を優先していただきますようお願いいたします。
2F:いきいき広場
1F:児童玄関
なかよし広場
通用口
校舎東側駐車場
西　門
5年 分科会
5年 授業
塔　屋
4年 分科会
4年 授業
駐車場口
家庭科室
正面玄関
算資
学習RⅡ
5松
5竹
社資
4松
4竹
外国語
音楽室
トイレ
ほっとルーム
校長室
職員室
放送室
中央出入口
保健室
竹2
相談室Ⅰ
相談室Ⅱ
搬入口
給食受室
倉庫
来賓受付
来賓控室
来賓駐車場
温室
体育倉庫
くすのき児童クラブ
東　門
正　門
輸送バス乗降場
駐輪場
支部長・研究部長駐車場（校舎側１列）
トイレ
プール
※　お帰りの際、松山方面の方は右折、川内インター方面の方は左折をお勧めします。
東予・南予指名参加者駐車場
運動場口
※　中予指名参加者は、川内中学校の運動場へ駐車し、輸送バスで川上小までご移動ください。
南駐車場
※　南駐車場には、駐車できません。
川上幼稚園
南　門

研究の概要

東温市立川上小学校

1　研究主題

自らの変化に気付く児童の育成 ～魅力ある学習展開、変化を見取る評価を通して～

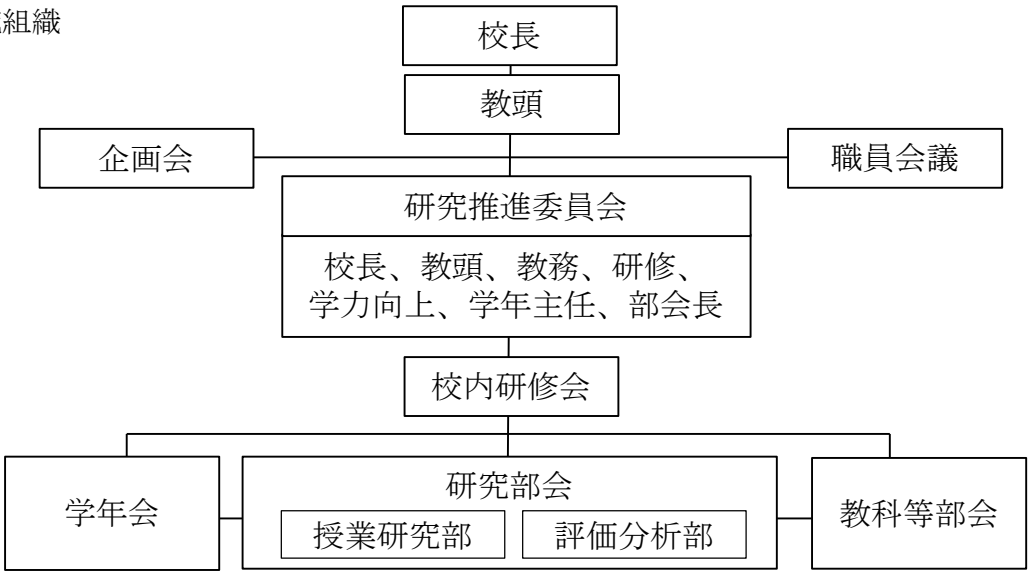
2　主題設定の理由

本校は、児童数 345 名、学級数 15 学級（特支２，通級１を含む）の中規模校である。創立 137 年の歴史と伝統を継承し、「健康・奉仕・親善」の校訓の下、学校教育目標である「未来を拓き、ともにたくましく生きる川上っ子の育成」に努めている。また、「目指す川上っ子の姿」として、「**か**わすあいさつ・**わ**かち合う心、**か**んがえ・聴き合う、**み**んなで創り・踏ん張る力」を掲げ、全教職員で「生きる力」を育む教育活動を推進している。

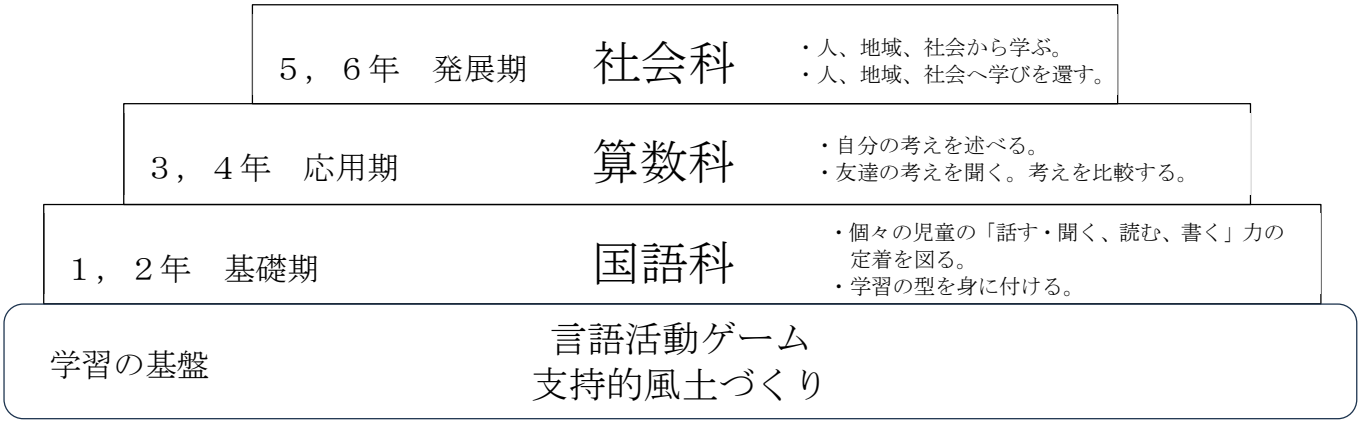
児童は明るく素直で、何事にも意欲的に取り組むことができる。創造力や協働する力も備わっており、委員会活動を始めとする特別活動では児童が主体となって学校をよりよくしようとする姿が見られる。その反面、学習に関しては、基礎・基本が身に付いていない児童が多く、課題に対して自分の考えが持てなかったり、深めたりすることが難しい状況にあった。また、全国的な傾向と同様に、登校しにくい児童も増加傾向にあった。東温市では、不登校を減らし、児童・生徒にとって「魅力ある」学校となるよう市全体で取り組んでいる。

そこで、本校では「子どもが変わる教育の推進」に向けて、「魅力ある学習展開」と「変化を見取る評価」の二つを研究の柱として取り組んできた。学年ごとに研究教科を設定し、基礎から発展へ、個々から社会へと学びを広げていく流れとした。児童にとって「魅力ある」授業となるよう、児童の思いから学習課題を設定し、課題探究型を見据えた単元構成の中で課題意識を持続させることができるような指導の工夫を研究していく必要がある。さらに、個々の児童が自らの学習状況を理解し、自ら学習を調整しながら学んでいくことで基礎・基本の定着を図り、ひいては深い学びへと導くことができると考え、本主題を設定した。

3　研究組織



4　研究教科



5　研究の目標

課題探究型を踏まえた単元構成のもと魅力ある授業を展開する中で、児童が自らの変化を見取ることができるよう評価の工夫をすることを通して、児童の学びを深める。

6　研究の仮説

⑴　課題探究型を踏まえた単元を展開していく過程で、学習課題や学習形態、教材等の工夫を行えば、児童は学習に魅力を感じ、学びを深めることができるであろう。　（授業研究）

⑵　児童が自らの学習状況を捉える機会を継続的に設定することで、児童は自らの学びを調整し、学びを深めることができるであろう。　（評価分析）

7　研究の内容（参考にした授業モデルカードの番号）

⑴　魅力ある学習展開

ア　課題探究型を見据えた単元構成　（K、L ← Aア、Bイ、Jア・イ）

- 児童の問いを生かす学習課題の設定
- 単元を貫く学習課題の設定
- 課題意識を持続させる展開の工夫

イ　「考えタイム」と「ことりタイム」の効果的な活用　（M、N ← Cエ、Gカ、Iア）

- 個に応じた方法で追究する「考えタイム」の実施
- 伝え合い、練り合い、高め合う「ことりタイム」の設定
- 「ことりタイム」後の学習形態の工夫

ウ　デジタルとアナログの効果的な利活用（ベストミックス）　（M、N ← Iウ）

- 電子黒板の積極的な活用
- 学習支援アプリの効果的な活用
- デジタル教具とアナログ教具の使い分け

⑵　変化を見取る評価

ア　振り返りシートの活用　（N、O ← Cウ、Dイ、Eエ・オ）

- 自己の変容が分かる振り返りシートの検討
- 多様な振り返り方法の蓄積

・　振り返りシートを基にした個々の課題の明確化

イ　観点別評価シートの活用　（N、O ← Cウ、Fエ）

・　単元別テストの集計・分析

・　評価を基にした個々の課題の明確化

・　課題に対しての個々の振り返り

ウ　チャレンジ学習の推進　（O ← Fア・エ）

・　自己評価を基にした学習内容の選択

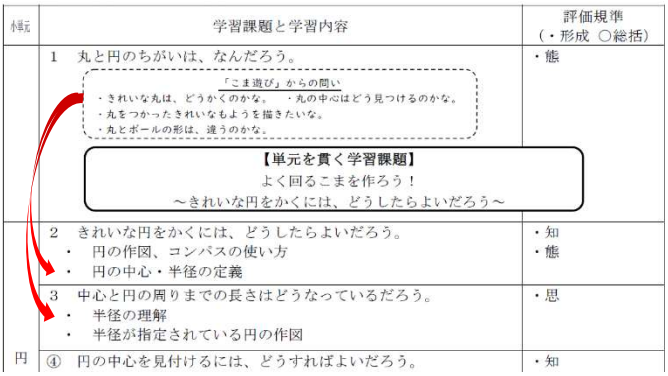
・　チャレンジ学習の例の提示

8　研究の実際

⑴　魅力ある学習展開

ア　課題探究型を見据えた単元構成（資料１）

魅力ある学習を展開していくためには、児童を引き付けるような学習課題を設定する必要がある。児童が問いを持てるような体験活動を行ったり、既習の学習内容を振り返ったりする。そこで出された問いを基に、単元を貫く学習課題に設定した。「児童から出た問い」を解決していくことが、毎時間の学習内容となる。



単元	学習課題と学習内容	評価規準（・形成 ○総括）
円	1　丸と円のちがいは、なんだろう。 「こま遊び」からの問い ・きれいな丸は、どうかくのかな。　・丸の中心はどう見つけるのかな。 ・丸をつかったきれいなもようを描きたいな。 ・丸とボールの形は、違うのかな。 【単元を貫く学習課題】 よく回るこまを作ろう！ ～きれいな円をかくには、どうしたらよいだろう～	・態
	2　きれいな円をかくには、どうしたらよいだろう。 ・　円の作図、コンパスの使い方 ・　円の中心・半径の定義	・知 ・態
	3　中心と円の周りまでの長さはどうなっているだろう。 ・　半径の理解 ・　半径が指定されている円の作図	・思
	④　円の中心を見付けるには、どうすればよいだろう。	・知

資料１　課題探究型を見据えた単元の指導計画

イ　「考えタイム」と「ことりタイム」の効果的な活用（資料２）

じっくり問題について考える時間を「考えタイム」と呼ぶが、その中でも、困ったら聴き合う環境を大切にしている。これは、「ことりタイム」の第一段階、「こ、困ったら聴き合おう」の部分に当たる。「考えタイム」では、一人で考える、教師に聴く、友達同士で聴き合うなどの学習形態を自分で選択できるようにしている。

また、教師が設定する「ことりタイム」では、ペアやグループで、課題について話し合う。「ことりタイム」を実施することによって、全体共有の場では意見が言えない児童でも、自分の思いが伝えられるメリットがある。



資料２　「ことりタイム」の合言葉

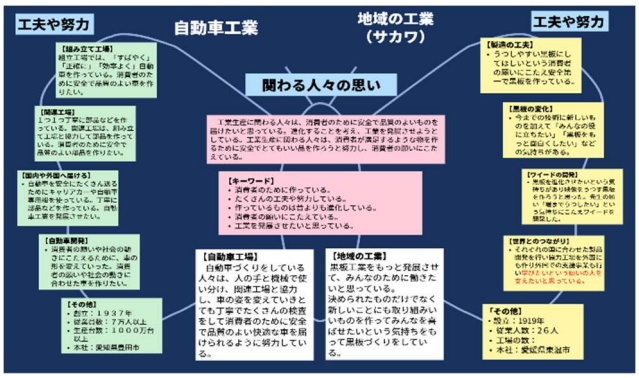
ウ　デジタルとアナログの効果的な利活用（ベストミックス）（資料３、４）

東温市の企業が開発した電子黒板を効果的に活用し、資料や児童の考えの提示を行っている。また、児童は学習支援アプリの思考ツールを用いて考えを整理している。ことりタイムでの話合いの方向性を示すのに効果的であり、グループの話合いで埋もれてしまった考えを後の全体共有の場で教師がピックアップすることができる良さもある。デジタル機器の便利さもあるが、アナ

ログ教材の方が学習に適している場面も多い。そのような見極めをしっかりと行い、デジタルとアナログのベストミックスを図っている。



資料３　全普通教室に設置された電子黒板

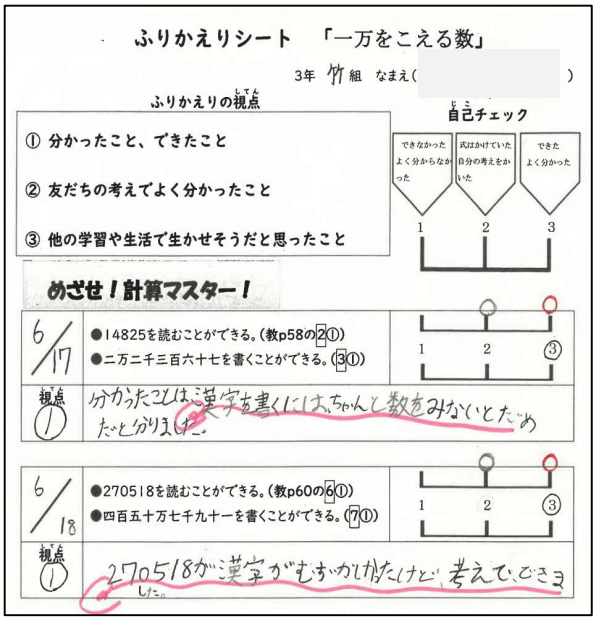


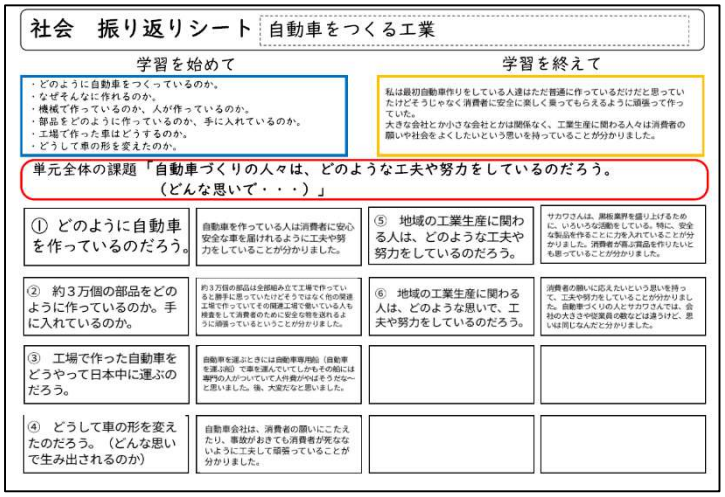
資料４　学習支援アプリの思考ツールの例

⑵　変化を見取る評価

ア　振り返りシートの活用（資料５、６）

毎時間の終末や単元の最初と最後に、児童が自らの学習を振り返る場を設定している。数値での評価、記述式の評価、蓄積型の評価、ワークシートを用いた評価、デジタルでの評価など、多様な振り返り方法がある。それらの中から、教科や学習内容、発達段階に応じて効果的な方法を授業者が選択している。振り返りを行うことで、自らの学習状況や変容に気付くことができ、次時での学習につながったり、チャレンジ学習に生かして学びを調整したりすることができた。また、低学年では視点をマークで示し、振り返りの仕方を身に付けられるようにしている。





資料５　振り返りシートの例



資料６　振り返りの視点マーク

イ　観点別評価シートの活用（資料７）

単元別テストの点数を集計し、学期末に児童や保護者に提示している。結果を示すだけではなく、自分の課題や改善策を書く欄を設け、チャレンジ学習などを通して自らの学習を調整するのに役立てている。

国　語　科 <観点別正答率>

問題の観点	知識・技能							思考・判断・表現等						
テスト番号	1	2	3	4	5			1	2	3	4			
得　点	100	95	80	88	96			100	90	99	84			
平均点	92　点							93　点						

<単元別正答率>

番	1	2	3	4	5		
主な単元	帰り道	聞いて考えを深めよう	時計の時間とその時間	たしかめ	漢字		
得点	100	93	90	86	96		

算　数　科 <観点別正答率>

問題の観点	知識・技能							思考力・判断力・表現力						
テスト番号	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6	
得点	100	100	100	100	100	95		70	85	90	87	100	100	
平均点	② 99　点							② 89　点						

<単元別正答率>

番	1	2	3	4	5	6	
主な単元	対称な図形	文字と式	分数×整数、分数÷整数	分数×分数	分数÷分数	たしかめよう	
得点	85	93	95	94	100	98	

		自分の課題	改善策		
記入例		①漢字の点が低い。 ②読み取りができない。 ③問題の読み間違いが多い。	①自主勉で漢字練習。 ②読書を１週間に１冊。 ③問題の訂正をていねいに。		
			自己評価（◎○△）	7月末	8月末
国語					

資料７　観点別評価シート

ウ　チャレンジ学習の推進（資料８）

自らの学びを調整する学習を「チャレンジ学習」と呼び、低・中・高学年別に例を作成した。基本の学習と、発展の学習に分け、自分の学習進度に合わせて選択できるようにしている。

チャレンジ学習の例（高学年）

		基本の学習	発展の学習
国語	漢字	・漢字練習 （漢字スキルの読み方、熟語、文など）	・同じ部首の漢字集め ・同じ読みの漢字集め ・習った漢字を使った文作り。 ・漢字スキルの QR コードから、テストに取り組む。
	読み取り	・教科書に出てくる言葉の意味調べ ・新聞や本を読んで、内容を書く。 ・授業で学んだ物語文と同じ作者の本を読む。	・じゅく語・ことわざ・慣用句集め（意味も書く。） ・本や新聞を読んで、内容を要約する（まとめる）。
	作文	・読んだ本の感想を書く。 ・視写（教科書の詩や物語、説明文） ・楽しいことや好きなものの紹介 ・日記を書く	・本や新聞を読んで、筆者が伝えたいことや内容に対する自分の考えを書く。 ・好きな詩や文を書き写す（視写）。 ・「もしも…作文」を作る。（本当にあったことではなく、想像したことでお話を作る。）
	聞く	・テレビのニュースを聞いて、内容を書く。	

資料８　チャレンジ学習の例（高学年用）

MEMO



愛媛県
教育研究大会
（発表大会）

第１学年松組国語科学習指導案　　令和８年11月５日（木）９:35～10:20

単元名　せつめいする文をよもう「じどう車くらべ」

指導者：水田　さくら　　場所：１年松組教室

１　単元の目標

○　事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。　（知識及び技能）

○　事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
（思考力、判断力、表現力等）

○　文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思考力、判断力、表現力等）

○　言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。　（学びに向かう力、人間性等）

２　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。　(⑵ア)	①　「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。　(C⑴ア) ②　「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。　(C⑴ウ)	①　進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときに生かしたいことを見つけながら読もうとしている。

３　指導観

○　本学級（29名）は、どの教科の学習にも意欲的に取り組むことができる。読み書きの習熟度には差があり、文章の読み取りに時間がかかる児童もいる。また、文章の言葉を捉えるよりも覚えて音読している児童が多く、教科書の本文のどこに書かれている内容なのかを確認しながら読むことは難しい。これまでの説明文「つぼみ」や「うみのかくれんぼ」の学習では、問いに対する答えを文章中から選び出す学習を繰り返してきた。しかし、絵や動画などの視覚情報に頼り、文章中の言葉を使って正しく説明したり、書かれている内容や様子を深く理解したり想像したりすることは難しい児童もいる。

○　本単元は、「じどう車くらべ」を読むことを通して、事柄の順序に注目しながら、文章の中の重要な語や文を選び出し、内容を捉える学習である。本教材は、「しごと」と「つくり」についての二つの問いに対して、三つの事例を挙げながら説明している文章である。児童にとって身近な自動車から特殊な自動車の順に説明されており、それぞれの説明が同じ文型で繰り返されているため、児童が興味を持って、比べながら理解していくことができる。それぞれの「しごと」とそのしごとをするためにどのような「つくり」になっているのかをまとめていく活動を通して、事柄の順序に気を付けて読み、文章中の重要な語や文を選び出すのに適した教材である。

○　指導に当たっては、まず、自動車について知っていることや好きな自動車について話し合わせたり、教師が作成した「じどう車ずかん」を提示したりする。そうすることで、次単元の図鑑づくりに関心を持たせ、見通しを持って学習に取り組ませる。教材文の読み取りでは、事柄の順序を理解させるために、「しごと」について捉えさせ、その「しごと」のためにどのような「つくり」があるのかを考えさせる活動を繰り返し行う。その際には、「しごと」と「つくり」を色分けして視覚的に整理させることで、文章の構成を理解する

基礎的な力を養いたい。毎時間の授業の終わりには、驚いたことや初めて知ったことなどを伝え合う活動を取り入れ、内容の理解を深めたり、次時への意欲を高めたりしたい。

本時は、前時までの学習を生かし、はしご車の「しごと」と「つくり」を考えてまとめる学習を行う。まず、自分の経験や写真を基に、はしご車の「しごと」を学級全体で確認し、共通理解を図る。次に、はしご車の「つくり」を考える手掛かりとなるように図鑑資料を配付し、「しごと」に合った「つくり」を二つ選ばせる。その後、ことりタイムを活用し、選んだ「つくり」について、「なぜそのつくりが必要なのか」という理由をグループごとに話し合わせる。最後に、はしご車が動く様子の動画を見ることで、図鑑から読み取った「つくり」が「しごと」に役立っていることを再確認するとともに、図鑑から必要な情報を読み取ることの良さを感じさせたい。このような学習を通して、次単元につなげられるよう、自動車の「しごと」や「つくり」についての重要な語や文を選び出す力の素地を育てたい。

4　単元の指導計画（全７時間／本時その７）

学習課題と学習内容	評価規準 （・形成　○総括）
1　どんな自動車があるだろう。 「自動車クイズ」からの問い ・身の回りにはどんな車があるのかな。　・なぜ車の大きさや形が違うのかな。 ・どんな人が乗るのかな。　・どんなことに使われているのかな。 ・いつ使う車なのかな。　・どんなものが乗っているのかな。	・態①
【単元を貫く学習課題】 じどう車はかせになろう。 ～じどう車には、どのような「しごと」と「つくり」があるのだろう～	
2　どのようなことが書かれているだろう。 ・　問いと答えの確認	・思判表①②
3　バスや乗用車には、どのような「しごと」と「つくり」があるだろう。 ・　バスや乗用車の「しごと」と「つくり」の読み取り	○知技① ・思判表①②
4　トラックには、どのような「しごと」と「つくり」があるだろう。 ・　トラックの「しごと」と「つくり」の読み取り	○知技① ・思判表①②
5　クレーン車には、どのような「しごと」と「つくり」があるだろう。 ・　クレーン車の「しごと」と「つくり」の読み取り	○知技① ・思判表①②
6　どのような順番で自動車が説明されているだろう。 ・　順序についての話合い	○思判表① ○態①
⑦　はしご車には、どのような「しごと」と「つくり」があるだろう。 ・　はしご車の「しごと」と「つくり」の読み取り	○思判表② ○態①
【単元のまとめ】 じどう車には、いろいろな「しごと」があり、「しごと」にぴったりな「つくり」がある。	

次単元「じどう車ずかんをつくろう」（全５時間）

絵本や図鑑を読み、選んだ自動車の「しごと」と「つくり」を調べ、「じどう車ずかん」を作成する。作成した「じどう車ずかん」を読み合い、感想を伝え合う。

5　本時の指導

⑴　目　標　　・　「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思考力、判断力、表現力等）

・　これまでの学習を生かし、「しごと」に合った「つくり」を捉えて読むことができる。（学びに向かう力、人間性）

⑵　準備物　　ワークシート、図鑑資料、振り返りシート

⑶　展　開

活動	1　前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。（５分） 一斉	2　はしご車の「しごと」について考える。 （７分） 一斉	3　はしご車の「しごと」に合った「つくり」を考える。 （23 分） 全体←ことりタイム←考えタイム	4　本時の振り返りをする。 （10 分） 一斉
板書計画	じどう車くらべ ☆じどう車はかせになろう ① 「しごと」にぴったりの「つくり」をする。 ② ともだちにつたえる。 はしご車には、どのような「しごと」と「つくり」があるのだろう。 しごと ・火じのときにかつやくする。 ・火をけす。 ・ビルのうえの人をたすける。 つくり 図鑑資料① しごと 図鑑資料② つくり 【じどう車のなまえ】　はしご車 しごと たかいところにいる人をたすけたり、火をけしたりする。 そのために つくり ・はしご　たかいところへとどかせるため。 ・バスケット　人をのせるため。 ・アウトリガー　車がたおれないようにするため。 ・ターンテーブル　むきをかえるため。 はしご車には、たかいところにいる人をたすけたり火をけしたりするしごとをするために、はしごやバスケットなどのつくりがある。 はしご車には、はしごのむきをかえるためのつくりがあるとわかりました。 「アウトリガー」ということばをはじめてしりました。 つぎは、きゅうきゅう車のしごとやつくりをしらべたいです。	・　はしご車の「しごと」について、知っていることを発表させた後、図鑑で確認することで、共通理解を持たせる。 ・　図鑑には、たくさんの情報があることに気付かせ、図鑑を使って調べることへの意欲を高める。	・　考えタイムの際には、はしご車の図鑑を配付し、児童が図鑑に書かれている語や文を基にして、適切な「つくり」を選び出せるようにする。 ・　「ことりタイム」では、選び出した「つくり」とその理由を話し合わせながら、はしご車の「しごと」に合った「つくり」を考えさせる。 ・　最後に、はしご車が動く様子の動画を見ることで、図鑑から読み取った「つくり」が「しごと」に役立っていることを再確認できるようにする。 ◎　「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 【思判表②】（発言・記述） ◎　これまでの学習を生かし、「しごと」に合った「つくり」を捉えて読もうとしている。 【態①】（発言・記述）	・　はしご車の一番すごいと思ったところや印象に残った言葉、次にどんな自動車について知りたいかについて意見交流する。
・指導上の留意点（◎評価）	・　単元の目標を確認したり、本時の流れを可視化したりして、学習の目的を理解できるようにする。 ・　いろいろな種類の消防車の写真を提示し、はしご車の特徴に着目させることで、学習への意欲を高める。			

6　研究の視点

○　単元を貫く学習課題の設定は、児童が主体的に学習に取り組むために効果的であったか。

○　３の活動で、はしご車の図鑑を配付したり、ことりタイムを活用したりしたことは、重要な語や文を選び出す力を育むのに効果的であったか。

○　振り返りの活動は、児童が内容への理解を深めたり、次時への意欲を高めたりするのに有効であったか。

愛媛県
教育研究大会
（発表大会）

第２学年竹組国語科学習指導案　　令和８年 11 月５日（木）９:35～10:20

単元名 思いうかべたことをもとに、話をしょうかいしよう「みきのたからもの」

指導者：池内　真衣　　場所：２年竹組教室

１　単元の目標

○　文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。（知識及び技能）
○　読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知識及び技能）
○　場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思考力、判断力、表現力等）
○　場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思考力、判断力、表現力等）
○　言葉が持つ良さに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）

２　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①　文の中における主語と述語との関係に気付いている。（(1)カ） ②　読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ）	①　「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ②　「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）	①　登場人物の様子を具体的に想像することに積極的に取り組み、学習の見通しを持ってお話を紹介する文章を書こうとしている。

３　指導観

○　本学級（22 名）は、６月教材「スイミー」と 10 月教材「お手紙」では、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像し、スイミーに伝えたいことを手紙に書く学習を行ってきた。これらの学習を通して、場面の様子や登場人物の行動など話の大体の内容は捉えられるようになってきた。一方で、叙述を基に登場人物の心情や行動の理由を読み取る学習においては、まだ深まりが見られない児童が多い。また、主語と述語の関係を正しく捉えたり、本文中の言葉を自分の知っている言葉に言い換えてしまい、正しく読み取れなかったりする児童も少なくない。

○　本単元は、内容の大体を捉え、登場人物の行動や様子を具体的に想像して読む力を育てることをねらいとしている。登場人物の様子を思い浮かべ、言動の理由を考えた後、学んだことを生かして家族等に話を紹介する学習である。本教材は、令和６年度から光村図書より掲載されている蜂飼耳の書き下ろしで、主人公のみきと宇宙人のナニヌネノンとの不思議で温かいやり取りが描かれた物語である。宇宙船等の挿絵は場面のイメージ化を助ける一方、ナニヌネノンの姿は描かれておらず、みきがナニヌネノンを見送ろうとした理由も文章には書かれていない。そのため、本文の言葉に着目して想像を広げ、登場人物の気持ちや、行動の理由を捉えて児童が読みを深めるのに適した教材である。さらに、次単元「お話のさくしゃになろう」を見据え、関連する物語の並行読書を取り入れることで、多様な設定や展開に触れさせ、創造力をより一層広げていく。

○　指導に当たっては、初発の感想を基に問いを見出し、児童の思いや疑問に沿った学習計画を立てる。児童から出た問いを軸に学習を進めることで、主体的に取り組めるようにする。次の段階では、場面や行動に着目して様子や心情を具体的に想像させ、話の面白さに気付かせる。毎時間、見付けた話の面白さを「おもしろちょ金」に記録していくことで学習課題を児童に意識させていく。単元の終末には、読み取ったことや記録してきた「おもしろちょ金」を生かして紹介文を書く。その際に完成した紹介文を家族だけでなく、友達同士で読み合うことで、一人一人の捉え方や感じ方の違いに気付き、多様な考え方を共有することの楽しさや良さを実感させたい。

本時は、題名の意味を考える上で重要な場面であるため、ナニヌネノンを見送るみきの気持ちを中心に登場人物の行動について具体的に想像していく。手立てとして、まず「もらった石をぎゅっとにぎっていた」という言葉に着目させ、その時の気持ちを考えさせる。その際、実際に石を持たせることで、より具体的に気持ちを想像する手助けとしたい。次にその気持ちの根拠となる叙述を探させる。その際「ことりタイム」を設定し、個人から全体へと考えを共有する場を設けることで、一人一人が安心して思いを伝え合える雰囲気を醸成したい。また、同じ気持ちでも着目する言葉に違いがあることや、同じ文からでも読みの違いがあることの面白さに気付かせていく。これらの学習を通して、児童が登場人物の行動を具体的に想像し、根拠となる本文の言葉を大切にしながら伝え合うことで、読みを深められるようにしたい。

4　単元の指導計画（全 10 時間／本時その６）

学習課題と学習内容	評価規準 (・形成　○総括)
1　「みきのたからもの」は、どのようなお話なのだろう。 初発の感想からの問い ・青い石が不思議だな。・お話が面白いから誰かに紹介したいな。 ・ナニヌネノンはどんな宇宙人なのだろう。・どうしてみきに石をあげたのだろう。 ・みきのたからものとは、何なのだろう。 【単元を貫く学習課題】 お話のおもしろさがつたわるように、お話をしょうかいしよう。 ～お話のおもしろさは、どういうところにあるのだろう～	・態①
2　どのようにあらすじをまとめたらよいだろう。 ・　あらすじのまとめ	○知技① ・思①
3　みきとナニヌネノンは、どんな人物だろう。 ・　登場人物の人物像読み取り	○思①
4　どうしてみきは、ナニヌネノンを見送ろうと思ったのだろう。 ・　１・２場面の読み取り	・思②
5　どうしてナニヌネノンは、みきに青い石を渡したのだろう。 ・　３場面の読み取り	・思②
⑥　みきはどんな気持ちで、もらった石をぎゅっとにぎっていたのだろう。 ・　４場面の読み取り	○思②
7　みきの宝物とは、何なのだろう。 ・　５場面の読み取り ・　物語全体の考察	○思②
8　お話のおもしろさとその理由を入れて、お話を紹介する文章を書こう。 ・　紹介文づくり	○思①② ○態①
9・10　書いた文章を読み合って学習したことをまとめよう。 ・　紹介文の交流	○知技②
【単元のまとめ】 人物のしたことや言ったこと、場面のようすを表す言葉を見つけて読み取ると、人物の気持ちや行動の理由が思い浮かんで、お話の面白さが分かってくる。	

5　本時の指導

⑴　目　標　　場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思考力、判断力、表現力等）

⑵　準備物　　ワークシート、振り返りの視点マーク

⑶　展　開

活動	板書計画	指導上の留意点（◎評価）
1　本時の学習課題を確認する。（10 分）一斉	みきのたからもの　　はちかい　みみ もらった石 ・青い石 ・ピー玉くらい ・かすかに光る ・風の音 ・ポロロン星まであんないしてくれる。 ナニヌネノンがあげたわけ ・ありがとう。 ・はじめて見おくってくれてうれしい。 ・また会いたい。 ・あそびに来てね。 みきはどんな気持ちで、もらった石をぎゅっとにぎっていたのだろう。	・　本時の学習課題に関連する前時の内容について振り返って確認する。 ・　「おもしろちょ金」の記入状況を確認し、本時の最終目標をイメージする。 ・　児童から出てきた問いを確認する。その中で学習課題となる問いがお話の中で重要なところであることを伝える。
2　本時の学習課題について考え、まとめる。（18 分）全体←ことりタイム←全体←考えタイム	もらった石をぎゅっとにぎっているみきの気もち 気もち ・はなれるのがさみしい。 ・見うしなわないように、一生けんめい見つめました。 文 ・石をくれてありがとう。 ・みきは、目をかがやかせて、石をうけとりました。 ・うちゅうひこうしになってナニヌネノンに会いに行こう。 ・どうやって、うちゅうに行けばいいかな。 うちゅうひこうしになればいいよね。 みきは、ナニヌネノンへの「さみしい」「ありがとう」「また会おうね」という、気もちをこめて石をぎゅっとにぎっていた。	・　みきの気持ちを考えた後、考えの根拠となる言葉や文に線を引かせる。 ・　考えを共有する場面では「〇〇という言葉から〇〇だと思いました。」という話型を使って根拠を明確にさせる。 ・　同じ考えを持つ児童同士でグループを作り、「ことりタイム」をする。同じ考えの友達がいない児童に対して近い考えのグループに入るように指示する。全く考えが異なる場合は、その児童たちでグループを作り、意見交換させる。 ・　「ことりタイム」では友達の考えを聞いての感想を伝え合わせることで、自分の考えを伝える良さや、多様な考えがあることの面白さを実感させる。 ◎　場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 【思判表②】（行動・記述）
3　単元の学習課題に取り組む。（10 分）一斉	おもしろちょ金ばこ またいつか、二人が会えたらいいな。 見えなくなるまで見おくっててやさしいな。 石をもらったから、うちゅうひこうしになろうってきめたんだ。	・　本時の「おもしろちょ金」の記入内容を共有することで、単元を貫く学習課題の解決に向けて進んでいることを実感させる。
4　本時の振り返りをする。（7 分）一斉	文のことば ・みきの気もちを文から考えることができた。 ともだちのいいところ ・〇〇さんのうちゅうひこうしになろうと、考えているところがいいなと思った。 つぎにむけて ・五ばめんのみきの気もちも考えたい。	・　児童の振り返りを板書することで、うまく振り返りのできない児童の参考にさせる。 ・　振り返りの視点のマークを提示することで自分の視点を明確にさせる。

6　研究の視点

○　「おもしろ貯金」に物語の面白さを記録していくことは、児童の課題意識を持続させ、課題探究型を見据えた学習を展開することにつながったか。

○　振り返りの方法は、児童が自らの学びの実態を捉えるのに適切であったか。

愛媛県 教育研究大会 （発表大会）	第３学年松組算数科学習指導案　　令和８年 11 月５日（木）９:35～10:20 単元名　**円と球** 指導者：武智　剛毅　　場所：３年松組教室

１　単元の目標

円と球について、コンパスを使って円を作図する活動や円や球を観察する活動を通して、円や球の性質を理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

２　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　円や球の形とそれらの中心、半径、直径について理解している。 ②　コンパスを使って円をかくことができる。	①　円の半径や直径、中心となる点を観察したり、作図したりすることを通して、円の性質を見いだしている。 ②　球の観察や直径の測定などを通して、球の性質を見いだしている。	①　円や球の形の考察に進んで関わり、特徴を調べようとしている。 ②　「まるい形」を数学的にとらえるための見方やコンパスのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。

３　指導観

○　本学級の児童（27 名）は、どの教科の学習にも意欲的に取り組んでいる。算数科において、新しい学習課題に対して既習事項を活用しながら積極的に解決していこうとしている児童が多い。一方で、既習の計算方法や解法パターンを当てはめて、形式的に解答を導き出そうとする傾向が見られる。問題場面を自分の生活経験に置き換えて、数量の関係を想像したり、立式の根拠を説明したりすることに苦手意識を持っている児童も多い。そのため、日頃から単元の導入において、児童にとって身近な生活場面を問題の背景として設定し、生活の中の困りごとを算数で解決しようとしたり、実生活のどんなところで使えそうかを考えたりすることを取り入れるなど、日常生活とのつながりを大切にしている。

○　本単元は、小学校学習指導要領第３学年「Ｂ　図形」⑴に位置付けられている。円や球の定義や性質について理解することや、図形の性質を見いだし、身の回りの物の形を図形として捉えることをねらいとしている。第１学年では、円と球について、「まるい形」、「ボールのような形」として捉えてきている。本単元では、観察、分類、構成、作図などの活動を通して円について、また、観察を通して球についての理解できるようにする。

○　指導に当たっては、「こまがよく回る形（円）にはどのようなひみつがあるのだろう。」という児童から出た学習課題の解決に向けて、円や球についての理解を深めていく。円や球の概念について初めて学習するため、三角形、長方形や正方形などの四角形といった既習事項を振り返り、図形を構成する要素に着目したい。図形を観察したり、作図したりする活動を通して、円や球の性質を発見し、身のまわりにある円や球への関心を高める。

本時は、児童が日常生活と算数のつながりを実感し、単元全体を見通して、円について学習してみたいという意欲を持つことをねらいとしている。まず、様々な形のこまを実際に作成・操作・観察する活動を行う。よく回るこまを見付け、よく回るこまの理由について小集団で対話し、まるい形をしたこまや、つまようじが真ん中にささっているこまがよく回ることに気付かせる。「なぜまるい形だとぶれないのか」「本当の真ん中はどこか」といった児童の素朴な疑問や意見を整理し、「よりよく回るコマを作るには、丸い形のひみつを知る必要がある」という学びの必要性を実感させる。本時の活動を通して生まれた疑問を、単元を貫く学習課題として設定することで、次時以降の「中心」や「半径」といった円の構成要素や円の性質を探究する学習へつなげていく。

4　単元の指導計画（全 11 時間／本時その２）

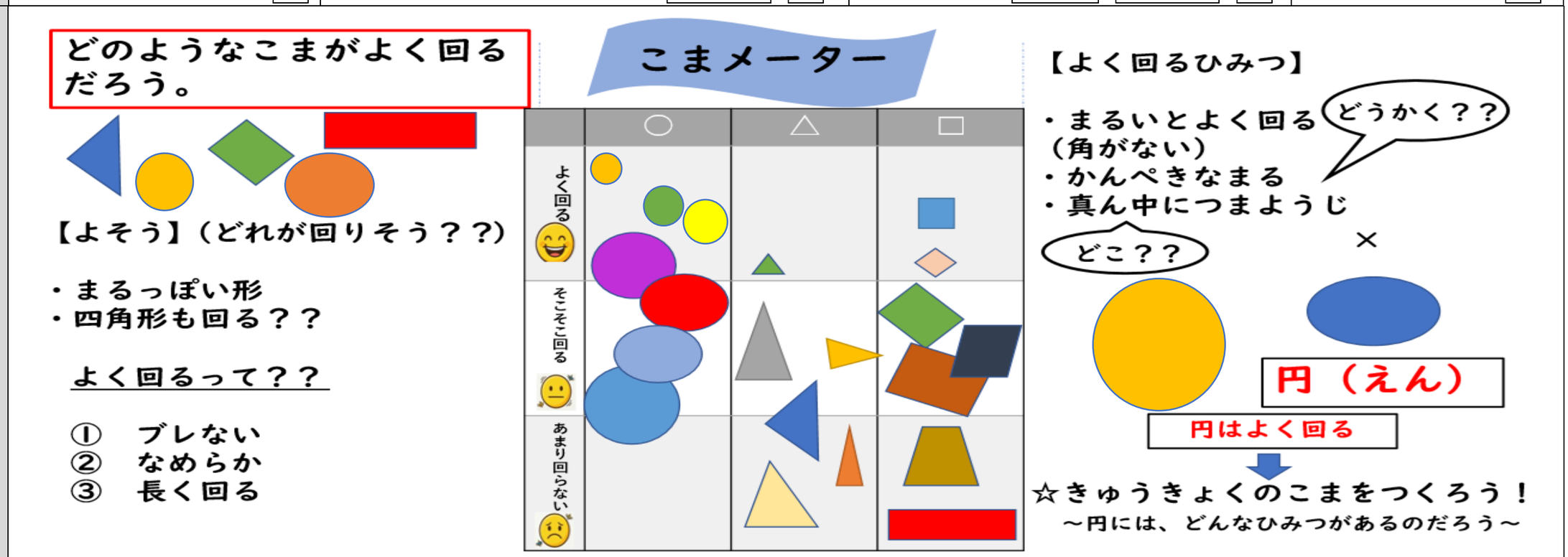
小単元	学習課題と学習内容	評価規準 （・形成 ○総括）
課題設定	1　紙を切って作るとどんなこまができるだろう？ ・丸、四角、三角など様々な形のこまの作成	・態①
	②　どのようなこまがよく回るのだろう。 「こま回し」からの問い ・まるいとこまはよく回る。　・まるい形ってふしぎ。 ・もっときれいなまるい形のこまを作ってみたい。 ・真ん中ってどこだろう。　・つまようじの場所も関係ありそう。 【単元を貫く学習課題】 きゅうきょくのこまをつくろう！ ～円には、どんなひみつがあるのだろう～	・態①
円	3　きれいな円をかくには、どうしたらよいだろう。 ・　円の作図、コンパスの使い方 ・　円の中心・半径の定義	○知技① ・知技② ・思判表①
	4　半径の長さはどうなっているだろう。 ・　半径の理解 ・　半径が指定されている円の作図	○知技② ・思判表①
	5　円の中心を見付けるには、どうすればよいだろう。 ・　円の直径の定義、直径＝半径×２ ・　円の中心の見付け方	・知技① ・思判表① ○態①
	6　きれいなもようを作るにはどうしたらよいだろう。 ・　コンパスを使ったもよう作り	○思判表①
	7　一番の近道はどこだろう。 ・　コンパスを使った長さの写し取り	・態②
	8　究極のこまを作るにはどうしたらよいだろう？ ・円のこまづくり 【単元のまとめ】 円には、中心から円のまわりまでの長さ（半径）がすべて同じというひみつがある。また、どこを通っても中心を通る直線（直径）の長さは半径の２倍ですべて同じになる。	
球	9　ボールは、どんな形だろう。 ・　丸みのある立体の弁別、球の定義 ・　球の切り口、球の中心・半径・直径 【新たな学習課題】 円以外にどんなまるい形があるのだろう。	○知技① ・態①
	10　どうすれば球の直径をはかることができるだろう。 ・　球の直径の測定	○思判表②
	11　学習内容をたしかめよう。 ・　評価問題 ・　単元の振り返り 【単元のまとめ】 生活の中には円や球の形をしたものがたくさんある。	○知技①② ○態②

5　本時の指導

⑴　目　標　　円形のこまが安定してよく回ることに気付き、その理由を考える活動を通して、円に関心を持って単元の学習課題をつかむことができる。（学びに向かう力、人間性等）

⑵　準備物　　こま、ワークシート、振り返りシート

⑶　展　開

活動	1　こまを観察し、どのこまがよく回るか予想を立てる。（5分） 一斉	2　こまを回して、よく回る順番を考える。（15分） ことりタイム→全体	3　こまを回した結果を基に、よく回るこまのわけや特徴を話し合う。（15分） 考えタイム→ことりタイム→全体	4　単元を貫く学習課題を設定する。（10分） 全体
板書計画				
・指導上の留意点（◎評価）	・　「自分の予想は当たっているか」「どうなるのだろう」という関心を持って主体的に活動できるようにするために、あらかじめ予想を立ててから、実際に回す活動へ移行する。 ・　様々な形のこまがあることを確認し、児童の「比べてみたい」「どれがよく回るのだろう」という発言から本時の学習課題を設定できるようにする。	・　実際に児童が回す前に、教師による例示を行い、ブレずに綺麗に長く回る様子を全体で捉えさせ、グループ活動の際に比較・考察を正確に行えるようにする。 ・　よく回る順番をメーター形式で決定させることで、次の学習活動の際に、よく回ったこまとあまり回らなかったこまを比較しながら、理由を考えることができるようにする。 ・　形の種類ごとのメーターを作成することで、よく回る形を視覚的に捉えることができるようにする。	・　児童から出てきた「角（かど）がないから回る」「どこから見ても同じ形」といった言葉を価値付けしたり、問い返したりすることで、「よく回るこまには何か特別なひみつがありそうだ」という気付きを引き出す。 ・　よく回っていた丸いこまの形が円であることを提示し、手描きの少し歪んだ丸を見せ、正確な円をかくことへの意欲を高める。	・　振り返りとして、本時の中での疑問や気付いたこと、これからどんなことを学習していきたいかを記述させる。 ・　児童から出た考えや意見を基にして、単元を貫く学習課題を設定する。 ◎　円や球の形の考察に進んで関わり、特徴を調べようとしている。 【態①】（発言、記述）

6　研究の視点

○　よく回るこまについて考える学習展開は、児童が円への関心を高め、単元を貫く学習課題を設定することにつながったか。

○　「考えタイム」や「ことりタイム」を取り入れた学習展開は、児童の考えを広げ深めさせるのに適切であったか。

愛媛県 教育研究大会 （発表大会）	第４学年竹組算数科学習指導案　　令和８年11月５日（木）９:35～10:20 単元名　**面積** 指導者：池田　亮平　　場所：４年竹組教室

１　単元の目標

長方形や正方形の面積について、その比べ方や表し方を理解し、求め方や公式を考えたり単位を適切に用いて表現したりすることを通して、面積の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。

２　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　面積や単位の意味を理解し、それらを適切に用いて面積を表すことができる。 ②　長方形や正方形の面積の公式について理解し、それらを適切に用いて面積を求めることができる。	①　図形を構成する要素に着目し、長方形や正方形、複合図形の面積の求め方を考えている。 ②　面積の単位相互の関係について、既習の単位との関係を基に考察している。	①　長方形や正方形の面積を求める活動に進んで取り組んでいる。 ②　長方形や正方形の面積の求め方や公式のよさに気付き、身の回りの事象や他の図形に生かそうとしている。

３　指導観

○　本学級（31名）は、明るく活発で何事にも一生懸命取り組む児童が多い。算数科の学習においても課題に意欲的に取り組み、自分なりに考えようとしたり、友達の考えに関心を持ち、話合いに前向きに参加したりする姿が見られる。一方で、答えを求めることに意識が向き、図や式から共通点やきまりを見いだすなど、既習事項と関連付けて考えたり、自分の考えの根拠を明らかにしたりすることには課題が見られる。そのため、日頃から自分の考えを図や式、言葉を用いて表現し、互いの考えを交流する活動を取り入れることで、多様な考えに触れ、自分の考えを見直したり深めたりすることができるように指導している。その中で、数学的な見方・考え方をより豊かに働かせるために、既習事項との関連や共通点を見いだすとともに、自分の考えの根拠を明らかにしながら筋道立てて考える力をさらに伸ばしていく必要がある。

○　本単元は、小学校学習指導要領第４学年の内容 A「数と計算」⑹、B「図形」⑷に位置付けられている。児童はこれまでに、「長さ」や「かさ」、「重さ」などの量について、直接比較や間接比較、任意単位による比較・測定を通して、普遍単位を用いて量を数値化して表す学習を積み重ねてきた。面積については、第１学年で図形を重ねたり、ますの個数を数えたりして、簡易な場合の大小比較を学習しており、本単元では、既習の量の見方や測定の考え方を面積へと広げていくことが重要となる。本単元では、「広い・狭い」という感覚的な見方に「面積」という概念を与え、比較や測定を通して面積の意味や単位への理解を深めていくことをねらいとしている。また、単位正方形を基に面積の求め方を考え、その考えを交流・吟味することで、既習事項と関連付けながら面積の公式の意味やよさを捉えることができる教材である。そして、既習事項を基に、長方形や正方形の面積の公式を見いだす過程や、その考えを複合図形の求め方や面積の単位間の関係へと広げる活動は、数学的な見方・考え方を働かせる力を育成することにもつながっていく。さらに、本単元で身に付ける面積の見方や考え方は、第５学年で学習する三角形や平行四辺形などの面積を考える際の基盤となる重要な内容になっている。

○　指導に当たっては、単元の導入で「陣取りゲーム」を行い、児童の関心を高めるとともに、できた形の広さ比べを通して、単元を貫く学習課題の設定と課題の達成に向けた学習計画を立てる。その後、実際に長さを測ったり、大きさを作ったりする活動を通して、広さの量感を身に付けさせたい。面積の公式や複合図形の学習においても、単元の導入で使用した図形を扱い、その面積の求め方を図や式、言葉などを用いて根拠を明らかにしながら筋道立てて説明させた

い。また、単元の後半では、既習事項である「長さ」の単位間の関係を想起させながら、面積の単位と関連付けて学習を進めていく。

本時は、長方形や正方形の面積を求める公式を導くことがねらいである。長方形の面積が、単に「縦×横」の公式に当てはめるといった形式的な求め方にならないように、縦と横に敷き詰めた１㎠の正方形の個数に着目し、公式を導き出す過程を大切にして、児童に根拠を持って考えさせたい。まず、長方形の面積について、児童から出された様々な求め方を、より簡単に求めるという視点で比較・整理する。その中で、縦や横に並ぶ１㎠の正方形の数と辺の長さが対応していることに気付かせ、方眼がなくても辺の長さを用いて面積を求められることを捉えさせる。そして、それぞれの考えを関連付けながら、辺の長さを用いた求め方へと考えを高め、「長方形の面積＝縦×横」という公式へと一般化していく。終末には、単元を通した振り返りシートを用いて本時の学習を振り返るとともに、「陣取りゲーム」で扱った複合図形を提示し、次時への意欲を高めさせたい。

４　単元の指導計画（全 10 時間／本時その３）

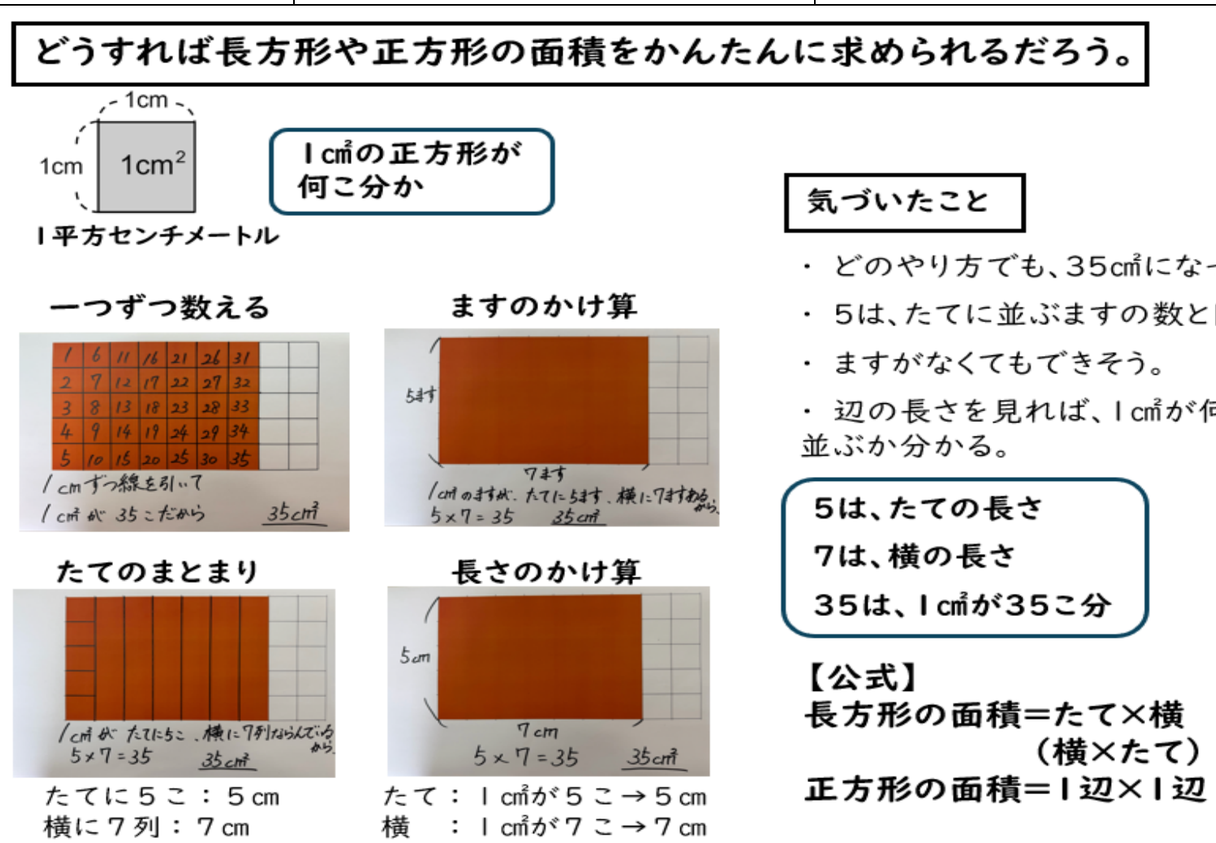
小単元	学習課題と学習内容	評価規準 （・形成 ○総括）
課題設定	1　広さは、どのように比べるとよいだろう。 「陣取りゲーム」の広さ比べからの問い ・長方形や正方形の広さはどう求めるのかな。・広さの単位はあるのかな。 ・階段のような形も求められるのかな。・身の回りのものの広さはどのくらいかな。 【単元を貫く学習課題】 面積のひみつを見つけて、面積マスターになろう。 ～広さはどのように表したり求めたりできるのだろう。～	・知技① ・態①
長方形・正方形の面積	2　どうすれば面積を詳しく表すことができるのだろう。 ・面積の単位（㎠）	・知技① ・態①
	③　どうすれば長方形や正方形の面積を簡単に求められるだろう。 ・長方形、正方形の面積の求め方と公式	・知技② ○思判表①
面積の求め方の工夫	4　長方形や正方形以外の図形の面積は、どうすれば簡単に求められるだろう。 ・複合図形の面積の求め方	○思判表① ・態②
大きな面積	5　長さの単位がｍのとき、面積はどのように表すのだろう。 ・面積の単位（㎡）	・知技①
	6　長さの単位が違うときは、どのように面積を求めるのだろう。 ・㎠と㎡の単位間の関係	・思判表② ○態①
	7　身の回りのものの面積は、どのくらいなのだろう。 ・１㎡の面積づくり ・身の回りのものの面積調べ	○態②
	8　長さの単位が㎞のとき、面積はどのように表すのだろう。 ・面積の単位（㎢） ・㎡と㎢の単位間の関係	・知技① ・思判表②
面積の単位の関係	9　長さと面積には、どのような関係があるのだろう。 ・面積の単位（a、ha） ・長さの単位と面積の単位の関係	○知技① ○思判表②
	10　練習、学びのまとめ、自己評価 ・評価問題、単元の振り返り 【単元のまとめ】 広さは、面積の単位を使って表し、公式を使って求めることができる。	○知技② ○態②

5　本時の指導

⑴　目　標　・長方形や正方形の面積の公式について理解し、それらを適切に用いて面積を求めることができる。（知識、技能等）
・図形を構成する要素に着目し、長方形や正方形の面積の求め方を考えることができる。（思考力、判断力、表現力等）

⑵　準備物　　ワークシート、センテンスカード、振り返りシート

⑶　展　開

活動	1　本時の課題を把握する。（５分） 一斉	2　長方形の面積の求め方を考える。（15 分） 考えタイム→全体	3　長方形の面積の公式を導く。（10 分） ことりタイム（ペア）→全体	4　練習問題を解き、正方形の面積の公式を確認する。（10 分） 考えタイム→全体	5　学習のまとめをし、本時の振り返りをする。（５分） 一斉
板書計画					
・指導上の留意点（◎評価）	・　前時までに学習した「面積」の言葉や単位（㎠）を想起させ、「１㎠の正方形が何個分あるか」で面積を表すことを確認する。 ・　陣取りゲームで扱った図形を提示し、本時の課題への見通しを持たせる。	・　「自分で」「友達と」「先生に」の学び方を児童が選択し、自分に合った方法で考えを形成できるようにする。 ・　求め方だけでなく、「なぜその方法で求められるのか。」を図や式、言葉を用いて説明させる。 ◎　面積の単位や図形を構成する要素に着目し、長方形や正方形の面積の求め方を考えている。【思判表①】（行動、記述）	・　児童から出された面積の求め方を、考え方の共通点や簡潔さに着目して比較し、より簡単に求められる方法へと考えを整理する。 ・　縦や横に並ぶ１㎠の正方形の個数が、それぞれの縦や横の長さと対応していることに気付かせ、辺の長さを用いたかけ算で面積が求められることを捉えさせる。	・　正方形の場合は、縦と横の長さが等しいので、「１辺」と言い表すことを押さえる。 ◎　長方形や正方形の面積の公式について理解し、適切に用いて面積を求めることができる。【知技②】（行動、記述）	・　振り返りの視点を提示し、児童の言葉で振り返りシートに記述させる。 ・　陣取りゲームで扱った複合図形を提示し、次時への意欲を高める。

6　研究の視点

○　児童が数学的な見方・考え方を働かせながら思考を深めるために、「考えタイム」と「ことりタイム」を取り入れた学習展開は効果的だったか。

○　単元を通して振り返りを積み重ねることは、児童が自らの考え方や学び方の変容に気付くことにつながったか。

愛媛県
教育研究大会
（発表大会）

第５学年竹組社会科学習指導案　　令和８年11月５日（木）９:35～10:20

単元名　**わたしたちの生活と工業生産**
～自動車をつくる工業～

指導者：茂川　哲也　　場所：５年竹組教室

１　単元の目標

我が国の工業生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して調べ、まとめることで、工業生産に関わる人々の工夫や努力を理解する。また、工業生産に関わる人は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するために、様々な工夫や努力をして工業生産を支えていることを理解し、適切に表現することを通して、これからの我が国の工業生産の発展について考えようとする態度を養う。

２　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて資料から読み取って調べ、工業生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ②　工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解している。	①　製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、それらの人々の働きを考えて、表現している。 ②　工業生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、工業生産に関わる人々の働きを捉え、適切に表現している。	①　我が国の工業生産について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

３　指導観

○　本学級の児童（26名）は、どの教科の学習にも意欲的に取り組むことができる。これまでの社会科の学習では、農業や水産業の学習を通して、「多くの人々の工夫や努力が社会を支えている」という視点を少しずつ持ち始め、社会の仕組みを知ることへの関心が高まった。また、児童の中には、その関心を持った内容について、進んで調べてまとめたり、教師に質問したりする児童もおり、学習内容を身近な生活と結び付けて考えようとする姿も見られるようになった。一方で、調べ学習では、情報を写すだけで終わってしまう児童もおり、課題や既習内容と得られた情報とを比較・整理しながら考察する力については、十分に身に付いていない児童が多い。

○　本単元は、大単元「私たちの生活と工業生産」の中に位置付けられており、身近な工業製品である自動車を中心に、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉えていくことをねらいとしている。本単元の内容は、前単元「くらしを支える工業製品」で調べた様々な工業製品の中から、自動車という日本を代表する工業製品を取り上げたものである。効率の良い生産工程や、時代に合わせた製品の変化に焦点を当てることで、生産者の工夫や努力、その働きについて考えるだけでなく、消費者の需要や社会生活の変化に対応し、優れた製品を生産することで我が国の工業生産を支えていることを理解させる。さらに、自動車工業だけでなく地域の工業である黒板製造メーカー「株式会社サカワ」を取り上げることで、両者の共通点を整理しながら、工業生産に関わる人々の工夫や努力について捉えていくとともに、地域に対する愛着や理解を深めさせることができる教材である。

○　指導に当たっては、単元の導入での児童の問いを基に、自動車づくりに携わる人々の工夫や努力について考える。その後、現在と過去の自動車を比較することで、消費者の需要や社会生活の変化に対応しながら生産が行われていることを捉えるだけでなく、それを叶えようとする自動車産業に関わる人々の思いにも気付かせたい。

単元の後半では、児童にも身近な地元の黒板製造メーカー「株式会社サカワ」を題材に、社長から創業当時の思いを聞いたり、実際に現場で働く人の声を紹介したりすることで、より良い生産のために多くの工夫や努力を重ねてきたことを理解させるだけでなく、消費者や社会生活のニーズに応えようとする生産者の思いについて考えさせたい。さらに、自動車産業と地域の工業の工夫や努力、思いについての共通点を整理しながら、学習課題について考えを深めることができるようにする。

本時は、サカワで働く人々の工夫や努力を基に、前時に個人が考えた地域の工業生産で働く人々の思いを、グループで共有し、考えをまとめ、発表させる。各グループでまとめた考えを全体で確認する際には、共通するキーワードを取り上げるようにする。そして、自動車工業とサカワに共通するキーワードから気付いたことを基に、本時の課題についての考えをまとめる。また、参観に来られている社長に、児童の考えを聞いた感想をいただ

くことで、児童がまとめた考えが実際の工業生産に関わる人々の思いと合っていたのか確認することができるようにする。

4　単元の指導計画（全 11 時間／本時その 10）

学習課題と学習内容	評価規準 （・形成 ○総括）
1　私たちの生活や産業を支える自動車は、どのような地域でつくられているのだろう。 「自動車工業に関する写真やグラフ」からの問い ・　どのように自動車を作っているのかな。 ・　約３万個の部品をどのように作っているのかな。 ・　工場で作った車はどうやって日本中に運ぶのかな。 ・　どうして車の形が昔と変わっているのかな。	・知技① ・態①
【単元を貫く学習課題】 自動車づくりをしている人々は、どのような工夫や努力をしているのだろう。	
2　組み立て工場で働く人々は、どのように自動車をつくっているのだろう。 ・　組み立て工場の工程や工夫	・知技① ・思判表①
3　関連工場で働く人々は、どのようにして自動車の部品をつくっているのだろう。 ・　関連工場の様子や組み立て工場とのつながり	○知技① ・思判表①
4　完成した自動車は、どのようにして消費者に届けられているのだろう。 ・　輸送方法や現地生産などの世界とのつながり	○思判表① ・知技①
5　なぜ、昔の車と形が変わってきたのだろう。 ・　現在と過去の自動車の比較、進化の過程や理由	・思判表② ○知技②
6　自動車づくりをしている人々は、どのような考えを持って工夫や努力をしているのだろう。 ・　自動車づくりに携わる人々の考え	○思判表② ○態① ・知技②
【単元のまとめ】 自動車づくりをしている人々は、消費者の願いに合わせた製品をつくり、自動車工業を発展させたいと様々な工夫や努力をしている。	
7　東温市にも世界に誇れるものはあるのだろうか。 ・　「株式会社サカワ」の工夫や努力 「身近な工業に関する写真やグラフ」からの問い ・　どのように黒板を作っているのかな。 ・　どうして電子黒板を作ろうと思ったのかな。 ・　どんなことに気を付けて電子黒板を作っているのかな。	・態①
【新たな学習課題】 工業生産に関わる人々は、どのような工夫や努力をしているのだろう。	
8・9　工業生産に関わる人々は、どのような工夫や努力をしているのだろう。 ・　「株式会社サカワ」の社長の講話 ・　地域の工業生産に関わる人々の工夫や努力	・知技①② ・態①
⑩　工業生産に関わる人々は、どのような考えを持って工夫や努力をしているのだろう。 ・　工業生産に関わる人々の考え	○思判表②
11　学習内容をまとめよう。 ・　ポスターづくり	○思判表② ○態①
【まとめ】 工業生産に関わる人々は、消費者の願いに合わせた製品をつくり、日本の工業を発展させようと様々な工夫や努力をしている。	

5　本時の指導

⑴　目　標　　「トヨタ自動車」と「サカワ」における工夫や努力に対するそれぞれの考えを比べて、共通の働きを捉え、適切に表現することができる。（思考力、判断力、表現力等）

⑵　準備物　　掲示資料

⑶　展　開

<table>
<tr><td>活動</td><td>1　前時の内容を確認し、本時の学習のめあてを提示する。　（５分）
一斉</td><td>2　「サカワ」が、どのような考えを持って工夫や努力をしているかを班で話し合う 。　（15 分）
ことりタイム→全体</td><td>3　「トヨタ自動車」と「サカワ」に共通するものづくりへの考えを比べて、気付いたことから、本時の課題についての考えをまとめる。（20 分）
考えタイム</td><td>4　本時の振り返りをする。　（５分）
一斉</td></tr>
<tr><td>板書計画</td><td colspan="3">
〈学習課題〉
工業生産に関わる人々は、どのような考えを持ってエ夫や努力をしているのだろう。

○サカワの工夫や努力
<table>
<tr><th>〈製造工場〉</th><th>〈黒板の変化〉</th><th>〈その他〉</th></tr>
<tr><td>・環境に負荷のかからない製造工程

・設置する場所や相手に合わせた設計

・各学校を回り、ていねいな聞き取り</td><td>昔 ： 漆(うるし)技術を生かした「黒板」

現在 ： 電子黒板(ワイード、かけるくん)

→ 消費者の声を聞き実現する
「黒板屋であり挑戦屋」</td><td>・岡本太郎作品の修復
→ 優れた技術を社会に生かす

・昔から使ってきたものに、新しい技術で別の価値を与える。</td></tr>
</table>

クラゲチャートの頭の部分のみ提示
1班
安全なものを作りたい。
みんなの役に立ちたい。

4班
安心安全な黒板をつくりたい。
常にチャレンジ。
みんなを喜ばせたい。
消費者のため

2班
消費者に安全に届けたい。
社会に貢献したい。消費者の願いに答えたい。みんなの役に立ちたい。消費者に喜んで貰いたい

5班
消費者のため
進化させる

3班
使う人の願いにこたえる。
使う人を笑顔にさせる。
協力

6班
消費者のためになるものを作りたい。
業界を発展させたい。
社会にこうけんしたい。消費者を喜ばせたい。新しいことに取り組みたい。

サカワ
・消費者のため
・消費者の願い
・消費者の笑顔
・安心、安全
・業界を良くする
・発展、進化

トヨタ自動車
・消費者の願い
・環境を考える
・安心、安全
・業界を良くする
・発展、進化

サカワとトヨタ自動車
・　どちらも消費者のためにという思いを持っているから。
・　自分たちの工業を発展させたいという思いで工夫や努力をしているから。
・　どちらも消費者の安心と安全を考えて生産している。

〈本時のまとめ〉
工業生産に関わる人々は、消費者のために製品をつくり、自分たちの工業を発展させようと様々な工夫や努力をしている。
</td><td></td></tr>
<tr><td>・指導上の留意点（◎評価）</td><td>・　地域の工業の学習内容を基に、学習課題を提示し、本時の学習の見通しを持つことができるようにする。</td><td>・　班で考えをまとめる際に、シンキングツールを用いることで、友達の考えと比較検討しやすいようにする。
・　各班の考えを投影機で提示することで、各班に共通するキーワードを見つけやすくする。</td><td>・　「サカワ」の社長から感想を伝えていただき、本時の課題についての児童の考えが、工業生産に関わる人々の考えと合っているのかを確認できるようにする。
◎　「トヨタ自動車」と「サカワ」における工夫や努力に対するそれぞれの考えを比べて、共通の働きを捉え、適切に表現している。
【思判表②】（発言、記述）</td><td>・　学習支援アプリを用いて振り返りを記述させ、発表させる。</td></tr>
</table>

6　研究の視点

○　自動車工業と地域の工業について学習する二段階の単元構成にすることで、児童の課題意識を高め、学びを深めることにつながったか。

○　単元学習前後の考えを記入した振り返りシートの工夫は、児童が自らの変容に気付くことにつながったか。

愛媛県
教育研究大会
（発表大会）

第６学年竹組社会科学習指導案　　令和８年 11 月５日（木）９:35～10:20

単元名　長く続いた戦争と人々のくらし

指導者：今井　互郎　ICT 支援：井上　智史　場所：６年竹組教室

１　単元の目標

日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを手掛かりに、我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解できるようにするとともに、主体的に学習課題を追究・解決しようとする態度を養う。

２　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　世の中の様子、文化遺産などについて調べ、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを理解している。 ②　中国との戦いが全面化したことや連合国との戦い（太平洋戦争）による敗戦、原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解している。	①　日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて考え、まとめたことを適切に表現している。 ②　日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを関連付け、我が国の政治や国民の生活が大きく変わったことを考えている。	①　日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習課題を追究し、解決しようとしている。

３　指導観

○　本学級（32 名）は、社会科に苦手意識を持つ児童が多く、歴史的事象に対する関心も十分に高まっていない。また、歴史上の人物や出来事を関連付けて考えたり、自ら学習課題を見いだして追究したりするなど、主体的に学習を進めることにも課題がある。一方、興味を持つきっかけがあれば知的好奇心を働かせ、新たな事実や情報を意欲的に知ろうとする姿が見られる。さらに、友達と協力し、互いの考えを聞きながら学習を進めることはできている。そこで、興味を引く資料や地域教材を活用し、友達と考えを交流する場を設けることで、歴史への関心を高め、自ら問いを持って学習を進めることができるようにする必要を感じる。

○　本単元は、日中戦争・我が国に関わる第二次世界大戦を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、我が国と中国との戦いが全面化し、戦争体制に移行したこと、我が国がアジア・太平洋地域において連合国と戦ったことにより各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾投下など、国民が大きな被害や損害を受けたことが分かるようにすることをねらいとしている。また、各種資料を効果的に活用し、調べたことをまとめ、表現することで、当時の世の中の様子や人々の暮らしの様子をつかみ、戦後の復興を契機に、我が国の現在があることに気付かせることができると思われる。そして、日本が経験した戦争や原子爆弾の記憶を風化させず、当時何があったのかを学んでいくことで、戦争の悲惨さや命の尊さを実感し、今後の自らの生き方を考えることができる重要な教材でもある。

○　児童は、修学旅行（10 月）で訪れる広島平和公園等に関する事前学習の一環として、１学期から平和学習（総合的な学習の時間）に取り組み、広島原爆の威力やその被害等について調べてきた。また、愛媛新聞の子ども向けウェブサイト・ｅスタを活用し、地域の戦争被害や体験者の声等にふれ、児童にとって紙上の出来事になりがちな戦争をより身近な問題としてとらえることができるようになってきている。ただし、平和学習では、広島原爆を中心に調べたため、他の地域の戦争被害については調べていない。そこで、平和学習の中で、広島以外の被害を受けた場所を調べることで、児童の太平洋戦争に関する理解を深め、社会科の学習課題を設定する資料にしたいと考える。また、本時は、ｅスタのコンテンツ「手紙が伝える戦争」の中で登場する特攻隊員に着目し、その遺族とアメリカ軍人の子孫の方との交流にふれる。そして、児童が、記事に登場するアメリカ軍人の子孫の方とインターネットを介して対面し、「なぜ、敵国の軍人の遺族に遺品を届けたのか」「アメリカでは、太平洋戦争はどのような印象なのか」等の質問をすることで戦争を多面的にとらえさせるとともに、学習意欲を高めていきたい。

児童はもちろん、その祖父母も戦争経験のない世代になりつつある。しかし、世界に目を向けると、今も各地で紛争や争いが起こっている。今回の学習を通して、児童には日本が経験した戦争の記憶を風化させることなく、次世代へ伝える担い手になってほしいと期待している。

4　単元の指導計画（全９時間／本時その１）

時	学習課題と学習内容	評価規準 (・形成 ○総括)	他教科等との関連
総合	修学旅行で訪れる原爆ドームや平和記念資料館、佐々木禎子さんの生涯等について調べよう。 （総８）		・　社会科「長く続いた戦争と人々のくらし」との関連を意識させる。
総合	広島原爆が投下された背景にある太平洋戦争で被害の大きかった場所（広島以外）について調べよう。 （総２）		・　一人一人の探求課題に基づき、調べ学習を進める。
総合	ｅスタの「手紙が伝える戦争」のコンテンツに掲載されているマーニー先生やトムさん、ジョンさんと交流しよう。 （総２）		・　社会科の教科書を活用し、時代背景をつかませる。
①	被爆した広島や被害が大きかった場所の様子などの資料をもとに話し合い、学習課題をつくろう。 児童発表やマーニー先生たちとの交流からの問い ・なぜ、戦争は起こったのか。　・どんな被害があったのか。 ・日本はなぜすぐに降参しなかったのか。　・　愛媛も被害があったのか。 ・戦争中の人々のくらしは？　・戦争中のアメリカは？　・復興の様子は？ 【単元を貫く学習課題】 戦争は、日本の国や人々の生活にどのようなえいきょうをあたえたのだろう。	・思判表① ○態度①	・　総合的な学習の時間で調べた内容を生かし、社会科の学習課題を設定する。
総合	自らが興味を持った課題について調べ学習を進めておく。 （総２・チャレンジ学習）		・　社会科の授業で、各自が調べた内容を紹介する場を設ける。
2	日本が中国で行った戦争は、どのような戦争だったのだろう。 ・満州事変からの戦争の広がり、日中戦争	・知技①	・　総合的な学習の時間で調べた内容を、順次紹介させる。（以降、同様）
3	戦争はどのように世界に広がったのだろう。 ・第二次世界大戦、太平洋戦争のはじまり	・知技①	
4	戦争中、人々は、どんな生活をしていたのだろう。 ・戦時体制の強化、くらしの制限	・知技①	
5	日本各地の都市は、空襲によって、どのような被害を受けたのだろう。 ・日本全国の空襲被害、東京大空襲	・知技①	
6	戦争はどのようにして終わったのだろう。 ・沖縄戦、原子爆弾投下、日本降伏	・知技①	
7	自分が住む地域の戦争の被害について調べよう。 ・地域の戦争被害に関する調べ学習	・知技①	・　ｅスタを活用し、地域の戦争被害について調べ学習を進める。
8	私たちが住んでいる地域には、どのような被害があったのだろう。 ・愛媛、松山での空襲被害、堀元官一さんの特攻	・知技①	
9	長く続いた戦争のえいきょうについて、自分の考えをまとめよう。 ・学習の振り返り ・戦後の復興の調べ学習に向けた意欲喚起 【単元のまとめ】 戦争が長く続き、国民生活に大きなえいきょうをあたえるとともに、国民やアジア諸国の人々に大きな被害や損害をもたらした。	○知技①② ○思判表①② ○態①	
総合	マーニー先生たちに、調べたことを紹介しよう。 （総２）		・　マーニー先生たちに学習成果を報告する。

5　本時の指導

⑴　目　標　　・　広島以外の戦争被害について調べたことを発表したり、アメリカの方々と交流したりした内容をもとにして、学習課題を立てることができる。（思考力、判断力、表現力等）

・　今後の学習の見通しや学習課題の解決に向けた予想を立てる。（学びに向かう力、人間性等）

⑵　準備物　　ビデオカメラ、提示資料

⑶　展　開

活動	1　太平洋戦争時において、広島をはじめ、被害が大きかった場所について調べた内容を想起する。（８分） 一斉	2　本時の学習のめあてを提示する。（１分） 一斉	3　マーニー先生たちに、太平洋戦争に対するとらえ方を聞き、学習課題を立てよう。（15 分） 考えタイム→ことりタイム→全体	4　これから、社会科で学んでいきたいことを発表し、学習のテーマを設定する。（15 分） グループ発表→全体	5　本時の学習を振り返る。（６分） 個人→一斉

板書計画

広島
- 1945年８月６日原爆投下
- 年末までに約14万人死亡
- その後も続く放射線の影響
- 原爆ドームを保存の経緯
- 佐々木禎子さんの生涯

東京
- 1945年３月10日
- 無差別の東京大空襲
- 死傷者　約12万人
- 犠牲者を弔う像など多数

沖縄
- 1945年３月以降激しく攻撃
- 約18万人のアメリカ軍上陸
- ひめゆり学徒隊
- 県民約12万人以上が死亡

神戸
- 1945年６月５日など
- 神戸市の西半分が焼失
- 映画「火垂るの墓」の舞台
- 戦争を今に伝える活動

松山
- 1945年７月26日未明から
- 一晩で松山市内が焼け野原
- 東温市にも爆弾
- 特攻隊堀元さんの日記
- 元アメリカ軍家族との交流
- アメリカの戦争のとらえ方

太平洋戦争における各地の被害の様子やマーニー先生たちの戦争のとらえ方をもとにして、学習課題をつくろう。


ジョンさん

・軍人であった父は、戦争について何も語らなかった。
・記憶を語るのが辛かったのだろう。
・日本だけでなく、どこの国とでも戦争をしたいとは思っていないはず。


トムさん

・軍人の父は、家族に、戦争について話すことをなかった。
・遺品を大切に保管した父の気持ちを思い、父の死後、遺族に返したいと強く願っていた。


マーニー先生

・二人の「堀元さんの遺品を遺族に返したい」という気持ちを知り、協力したいと思った。
・世の中に、戦争をしたいと思う人は、いないと思う。

クラゲチャートの頭の部分のみ提示

【１班】
- どうして、こんなに悲惨な戦争が起こったのか。
- 日本は、アメリカとだけ戦ったのか。
- 日本全体で、どんな被害があったのか。

【２班】
- 日本はこんな被害が出たのに、なぜ戦争をやめなかったのだろう。
- 日本は、どうやって復興していったのだろうか。

【３班】
- アメリカには、大きな被害はなかったのか。
- 日本とアメリカ・イギリスとの戦争だったのか。
- 特攻隊についてもっと知りたいな。

【４班】
- アメリカは、日本との戦争のことをどのように思っているのだろうか。
- 今の日本はとても豊かだけど、人々はどんな苦労や工夫をしてきたのか。

【５班】
- 日本軍が、外国で戦っていた場所はどこだろうか。
- 戦争を繰り返さないために、どんなことをしているのだろう。

【６班】
- 戦争は、どうやって終わったのだろう。
- 戦争に反対する日本人はいなかったのか。
- 日本軍は、この戦争に勝つと思っていたのか。

これから、学習していきたいこと
- なぜ、戦争は起こったのか。
- どんな被害があったのか。
- 日本はなぜすぐに降参しなかったのか。
- 愛媛も被害があったのか。
- 戦争中の人々のくらしはどんな様子だったのか。
- 戦争中のアメリカのくらしはどうだったのか。
- 日本は、戦争が終わった後、どのように復興していったのだろう。

【学習課題（学習のテーマ）】

太平洋戦争は、日本の国や人々の生活に、どのようなえいきょうをあたえたのだろう。

指導上の留意点（◎評価）	・　本時に参加してくださるミネソタ大学のマーニー先生やアメリカ軍人の子孫であるジョンさん、トムさんを紹介する。 ・　テレビ画面には、ビデオ会議の映像を常時映しておく。 ・　平和学習で各自が調べたことの発表の様子を、ＡＩを活用して作成したダイジェストとして視聴する。 ・　前時を想起して、感想を発表する。	・　ｅスタのコンテンツを活用した児童の発表に伴い、マーニー先生やアメリカ軍人の子孫の方々とインターネットを介して交流する。 ・　必要に応じて、発表内容に関する問い返しをしたり、補足をしたりする。	・　発表された内容をもとにして、問いを持ち、各自が学習したいことを考えうえで、話し合う。 ・　学習支援アプリのシンキングツール（クラゲチャート）を活用し、話合いを進める。 ◎　各グループの発表等をもとに、学習課題を立てている。 【思判表①】（発表・記述）	・　グループごとに考えたことを発表する。 ・　各グループの意見に基づき、教師が話合いをコーディネートしながら、単元を貫く学習課題（学習のテーマ）を設定する。	・　学習を振り返り、学習支援アプリを活用した振り返りシートに記入する。 ・　今後の学習の見通しを持たせ、学習意欲を喚起する。 ・　マーニー先生やアメリカ軍人の子孫の方々にお礼を伝えるとともに、１月には学習成果を報告することを知らせる。 ◎　今後の学習の見通しや学習課題の解決に向けた予想を立てようとしている。【態①】（発表・記述）

6　研究の視点

○　戦争に関する学習と既習の平和学習を関連させたことは、児童の理解を深めたり、学習時間を確保したりする上で、有効であったか。

○　ミネソタ大学のマーニー先生やアメリカ軍人の子孫の方々とインターネットを介して交流することは、児童の学習意欲を高めたり、視野を広げたりする上で、効果的であったか。

○　同一の記述式振り返りシートを毎時間活用することは、児童が自らの思考の深まりに気付くのに有効に作用するか。

○年○○科　授業分析シート（例）

※実際の授業分析シートと付箋は当日、受付にて配付いたします。

東温市立川上小学校

所属（　　）記入者（　　）

授業分析シートの使い方

①１～６の観点について、数値での評価をご記入ください。
　（数字に○が付いたものが、本授業の研究の視点と関連した項目です。）
②自由記述の欄に、ご意見やご感想等をお書きください。
③分科会教室出入り口、本校体育館後方、川内中学校体育館後方に設置してある回収箱に、ご提出ください。

（４…よくできた　　３…できた　　２…やや不十分　　１…不十分）

	観　　点	評　　価
1	児童の興味・関心をもとにした課題探究型を見据えた授業展開になっていたか。	４　３　２　１
2	児童の思考を深めるような構造的な板書になっていたか。	４　３　２　１
3	「考えタイム」や「ことりタイム」は、効果的に活用されていたか。	４　３　２　１
4	デジタルとアナログのベストミックスを図ることができていたか。	４　３　２　１
5	児童の考えを深めるために、教師のコーディネートは適切であったか。	４　３　２　１
6	評価の在り方は適切であったか。	４　３　２　１

〈自由記述〉

研究協議の行い方

①研究の視点に沿って、良い点は水色付箋、改善点はピンク色付箋に端的にご記入ください。
②グループ協議の際、模造紙に付箋を貼りながら協議をしてください。

良い点　水色

改善点　ピンク